

派遣国	フィリピン	派遣都市	ヌエバ・ビスカヤ, マニラ
出国年月日	2017年8月8日	帰国年月日	2017年8月22日
法政大学との共催団体名 (受入団体名)	GLMi		
主な活動内容	プロジェクトの理解、国際協力塾合宿		

## 1. 活動内容

この2週間で行った主な活動は2点ある。1点目はGLMiが農民の収入向上、環境保全を目的として支援を行っているもしくは行っていてすでに独立したプロジェクトの理解。2点目は国際協力塾合宿であり、自身で定めたテーマに沿って調査を行い、その調査結果をプレゼンテーションした。

1点目のプロジェクト理解のための活動は出国前から始まった。事前研修の課題の1つが3つのプロジェクト (ARMLLED, I-FARM, Vizcaya Fresh!) を自分なりにまとめることであり、自分なりに活動報告書などを読み、それぞれのプロジェクトのある程度の理解が求められる。ここでどれだけ理解を深められるかによって現地での理解の差がでるように思う。現地では今まで文章のみで理解していたプロジェクトを現地スタッフによるプロジェクトの説明、Q&A、実際に自身で現地スタッフや農民たちの仕事を体験することによりプロジェクトのより深い理解が得られる。

2点目の国際協力塾合宿は主に2週目の1週間で行われた。現地スタッフや農民などへのインタビュー結果や自分なりの調査によって、自分のテーマに関する調査結果を現地スタッフにプレゼンテーションする。私はこの国際協力塾合宿でNGOなどのスタッフと農民などの利害関係者が良好な信頼関係を築くためには何が大切かをテーマに調査を行った。限られた時間と限られた調査結果から調査結果をまとめなければならなかったため、個人的にはこの国際協力塾合宿が1番大変だったように思う。

その他の活動としては大きく分けて3点ある。1点目は現地スタッフへのExcelの使用法の指導。今回の参加者の専攻が全員理系であったこともあり、現地スタッフの仕事の効率化を図ることを目的として、出国前から準備を行い、約4時間かけて指導を行った。2点目はゴミ山を中心として暮らす貧困層の支援を行っているNGO、HALOHALO、元NGO裨益者たちの社会復帰と自立を目指す会社、UNIQUEASE、JICA Philippinesの活動理解。この活動はマニラにて行われた。それぞれの団体の元を訪れ、彼らの話を聞いたり、現状を見たりすることでGLMi以外の団体の苦労などを知った。そして3点目として現地の中学校で中学生と文化交流を行った。この活動は当初は予定になかったが、日本の文化をどうしたら伝わるかを考え、日本についてのプレゼンテーションをしたり恋ダンスを一緒にしたりした。彼らが想像以上に日本について知っていることに驚かされた。

## 2. 特筆すべきエピソード

私が最も印象に残っており、成長できたと感じる活動が国際協力塾合宿である。前述の通り私は NGO などのスタッフと農民などの利害関係者が良好な信頼関係を築くためには何が必要かをテーマに国際協力塾合宿を行った。これは高校生のときに参加した、JICA 主催のあるプログラムにおいて、信頼関係の構築が国際支援の現場では重要だということを学んだが、具体的にどのように信頼関係を築けばよいのかを当時は深く理解できなかったため、この機会に現場で学びたいと思ったからである。しかし、この国際協力塾合宿において、私は信頼関係構築の方法を理解しただけでなく、多様な価値観を持った人がいること、信頼関係が重要であることを改めて痛感させられた。

まず初めにこの調査における結論、良好な信頼関係を気づく方法を簡単に先に述べると、次の4つのステップになる。1つ目が頻繁なコミュニケーション。2つ目が裨益者のニーズの理解。3つ目が裨益者のニーズに応える。4つ目が成功モデルを作り出すことである。この結論に至るまでに私が最初に学んだのが多様な価値観の存在である。NGO などがプロジェクトを行ううえでまずぶつかる壁が価値観の違いである。農民たちの中には本当に自分たちのためにプロジェクトをやろうとしているのかと疑う人がいたり、新たなことを始めるリスクを恐れる人がいたり、有機野菜のプロジェクトを始めようにも健康を気にしてる場合じゃないと考える人もいたりする。このように様々な価値観を持った人がいることを学ばされた。そして、これらの価値観の違いのギャップを埋め、プロジェクトの理解をしてもらうために必要なのが信頼関係であることも実感させられた。実際、プロジェクトの1つの I-FARM ではプロジェクト開始当初、人があまり集まらず困っていた。そこで、一人一人と頻繁にコミュニケーションをとり、問題把握などに努めた結果、今では多くの人がプロジェクトに参加するようになっている。

このようにこの国際協力塾合宿によって、ただ自身の決めた問いの1つの答えを見つけるだけでなく、その過程において様々なことを学ぶことができた。

### 3. 苦労したこと

私は本プログラムの開始当初、自分の質問に自信を持てずに苦労した。本プログラムに参加した私を除く2人の学生は専攻が農業関係であった。そのため、彼女らの専門的な質問がアカデミックであったこともあり、自分の質問の内容が非常に薄く感じ、自分の質問に自信を持てず、質問をせずにいたことが当初はあった。しかしある時、無意識に農民に多くの疑問を投げかけたときに気づいた、質問をすることでわかることはたくさんある、積極的に自分の気になることは聞こうと。こんな何においても大事なことを私は忘れかけていたのだ。それから、私は多くの人に素直に多くの質問をし、議論をした。気づけば、私は彼女たちよりも多くの質問をしていた。

もちろん、たくさん質問したものが良いというわけではないが、私は自分の疑問をぶつけ、議論することで、より深く多面的に様々なことを理解できたと感じている。

### 4. 身に付いたこと

物事を多面的に見る力。一方向からではなく様々な方向から問題を見る力がこのプログラムにおいて身に付いたと思う。例えば、プロジェクトの1つの ARMLED は Agri-Loan という農民向けのローンサービスを行っている。このサービスでは農民が1ヘクタールを田おこしから収穫までを行うには約3万ペソかかるため、資金の問題や、農民の自立のためにローンの上限を1万5千ペソとして貸し出している。また、農民の負担軽減のために利率は2%にし、返済は米の収穫後にしていた。ソーシャルビジネスとして、農民のためを考え行われている事業であるが、彼らはローンの返済をしない人がいて困っていた。ARMLED の視点から見れば、農民はお金を返すという責任感がないから返さないのだというように見えるかもしれない。しかし、農民の視点から見ると彼らにも理由があることがわかった。Agri-Loan での資金だけでは足りず、他の金融業者からもお金を借りており、その利率がなんと約50%であるために、そ

らに先に返済しなければならぬという理由であった。Agri-Loan の利率の低さが裏目に出たのである。また、他の金融業者の視点から見てみると、他に對抗する業者がなく、農民が稲作をするためにはお金を借りる必要があることを知っているの営業してるようであった。この問題は ARMLED としてもどうすることもできず、農機レンタルサービスなどにより収入向上をしてもらい、悪循環から抜け出してもらうしか方法がないようであった。

このように 1 つの問題は一見単純そうに見えても、実はあらゆる角度からみると複雑に問題が絡み合っていることがわかる。そのため、ただ一方から 1 つの問題を見るのではなく、多面的に見ることが問題の本質理解につながることを学ぶことができた。

#### 5. 今回の経験を経て感じる「グローバル人材」像とは何か

私の考える「グローバル人材」とは国際社会の一員として世界の問題を考えられる人である。世界には約 200 カ国という国があり約 74 億人という数の人が住んでいる。しかし、日本にいても少し周りを見渡せば様々な国から輸入されたものが簡単に見て取れるだろう。もし、海外からの食料がなんらかの理由で輸入できなくなれば日本人は生きていけなくなるだろう。反対に、もし日本で大規模な海洋汚染が起これば世界中の海に影響が出るかもしれない。このように、グローバル化が進む現代ではあらゆる問題が自国の問題ではなく、世界の問題として捉えることが求められている。

これらの問題を世界のどこかで起きているけど誰かが何とかするだろう、ではなく、国際社会の一員として世界の問題を考え、できることをする。これが私の考える「グローバル人材」である。例えば、帰国後の今、ビスカヤのために私ができることとすれば現地の現状をできるだけ多くの人に共有したり、支援している NGO や NPO に寄付をしたりすることである。

#### 6. 後輩へのメッセージ

私はこのプログラムに参加することを強くお勧めする。このプログラムに参加することによって、国際協力の現場を理解することができるからである。また、そのようになるようにこのプログラムは工夫されている。例えば、毎日のようにどのようなことを感じたかなどのフィードバックシートを書かされたり、質疑応答などのディスカッションが多く設けられていたりする。また、国際協力塾合宿では自分のテーマに沿って柔軟に調査を行え、真摯に質問に答えてくれる人たちがたくさんいる。このような環境でプログラムを実施しているので少なからず国際協力の現場を理解することはできると思う。特に国際協力に興味がある人はぜひとも参加してほしい。

7. 写真



ARMLED の農機を使って代掻き



現地スタッフとのディスカッション



国際協力塾合宿におけるプレゼンテーション



現地の中学校との文化交流

以上